

全国がん登録実務者研修会

ケースファインディング  
(登録患者見つけ出し)



平成29年11月20日(月) 午後1時30分～  
信州大学医学部附属病院 外来棟4階大会議室



信州大学医学部附属病院 信州がんセンター  
相澤病院 がん集学治療センター

大槻 憲吾

ケースファインディング

登録候補見つけ出しをいつ行うか

2

ケースファインディングは、  
当該腫瘍の初診日から、4ヶ月～5ヶ月後に行う

初診、検査、診断、治療計画、治療などの、初回治療の過程がほぼ終了し、全国がん登録の届出情報の作成が可能となる。

初回治療計画が長期に及ぶ場合

術前化学療法⇒手術⇒術後化学療法⇒放射線療法⇒内分泌療法等の初回治療計画がなされ、治療期間が長期に及ぶ場合は、4ヶ月～5ヶ月後に仮登録を行い、初回治療が終了するまで経過を追って登録を完了させる必要がある。

## 主に使用する二つの診療情報

### 1. 病名情報（レセプト病名）

ケースファインディングに使用する病名(ICD-10コード)の例

対象コード：表1. がん登録の対象となる

候補コード：表2. がん登録の対象となる可能性のある候補に対応

[参考：院内がん登録支援 最新情報（2017/1/12更新）2.運用マニュアル Casefinding 関連ICDコード（PDF）](#)

病名開始日にて抽出

例：2017年11月に抽出する場合は、2017年6月の病名開始日の症例を抽出

参考：国立がん研究センターの研修会資料

## 主に使用する二つの診療情報

### 2. 病理情報（組織型）・・・（可能なら）

ケースファインディングに使用する言葉の例

症例抽出に使用する言葉

癌、腫瘍、肉腫、腫、tumor、cancer、carcinomaなど

病理診断依頼日等にて抽出

例：2017年11月に抽出する場合は、2017年6月の病理診断依頼日の症例を抽出

参考：国立がん研究センターの研修会資料

5

## 主に使用する二つの診療情報

1. 病名情報（レセプト病名）
2. 病理情報（組織型）

1. 2. から抽出した症例により、登録対象候補リストを作成し、診療記録を確認して登録の可否を決定する。

参考：国立がん研究センターの研修会資料

相澤病院の場合

6

## 電子カルテシステムの病理結果報告から抽出

例) 検査依頼日で1ヶ月毎に1ヶ月分を抽出し登録候補を抽出する。

病理検査結果より、登録候補を絞り込む際に  
使用しているキーワードの例

arci、Cancer、Stage、分化、癌、肉腫、リンパ腫、黒、  
白血病、leukemia、GIST、CIN、CIS、HSIL、SCC、Tis、  
髄膜腫、骨髄、MDS、Bowen、Paget、Group5、oma、  
中皮腫、UICC、規約

※ arci:carcinoma,carcinoid    oma:新生物全般

## 二つの診療情報を補完する情報

1. 抗がん剤の処方（内服、注射）
2. 放射線治療開始
3. 内視鏡記録
4. 手術記録

必ずしも必要がないが、定期的に精度管理の一環としてチェックに用いたい。

参考：国立がん研究センターの研修会資料

病名情報、病情報でケースファインディングを行う場合は、入院、外来を区別せずに行う。

### 入院症例の場合

がん登録の実施部署が、退院時要約の処理、DPC情報の作成を行っているのであれば、退院時要約の処理時、DPC情報の作成時に抽出あるいは仮登録を行ってもよい。

参考：国立がん研究センターの研修会資料